

平成22年度第2回愛知県道德教育推進会議協議の概要（議事録）

日時：平成22年12月15日（水）13：30～15：00

- 1 開会
- 2 愛知県教育委員会あいさつ（義務教育課長）
- 3 委員紹介
- 4 議長・副議長選出
 - ・ 議長 中野 靖彦 委員
 - ・ 副議長 平松 サナエ 委員
- 5 議長・副議長あいさつ
- 6 議事

協議題：（1）協議題「子どもたちの人間関係を築く力や社会性を育む道德教育の在り方」についての協議

- ① 子どもの人間関係を築く力や社会性を育むための一助となるカレンダーの構成について
 - ② カレンダーの効果的な活用について
- （2）子どもたちの道德性の現状について

- 議長： 呼びかけの言葉で、ボランティアについて重なっている部分についてはどうか。
- 委員： 10・11月にボランティア活動をやった後で、それがどう繋がっていくのだろうと考えたときに、12・1月に「わたしたちの町ってどんなところ？」「町に出てみよう」というのがある。町に出て行った活動を通じて感じたことから、自分たちの町ってどんなところだろうと、視点が変わっていくということがあるので、繋がると思う。
- 委員： ボランティアをやったことに対して、自分がもらったエネルギーを今度は社会の中で自分を見つける方に、もっていける言葉があると良い。
- 議員： ボランティアというのは、自分たちの町のよいところを見つけてみようという意味合いがあると思う。中学校も、小学校と同じでもいいと思う。
- 委員： 視点の流れを見ると、先に地域のことを見つけておいてからボランティアをやる方が、筋としてはいいようにも思う。
- 委員： 歳末助け合いも12月にある。社会の空気のこと考えると、12月・1月にもって行った方がやりやすいと思う。
- 委員： 地域以外のボランティアも考えて、先に地域をもってきた方がいい。
- 委員： ボランティアということが子ども達に浸透していくことは、とても大事なこと。どのようなことをボランティアとするかということが大事になってくる。
- 議長： 文科省で話を聞いた。ボランティアの難しさの話があった。ボランティアは自分で活動ができる。公的な組織じゃないから公平感はない。やれる人は、まず行ってやってみるということ。まとまらないとできないという感覚ではなかなか続かない。そう思うと、地域と友達とかかわっていく。そういう体験が積み重なって広がっていく。ボランティアをやってみようかということになる。住んでいるところを知ってからの方がいいと思う。小・中流れを同じにした方がいいと思う。
- 事務局： ボランティアやみんなのためにというのを12・1月にもって行く。
- 議長： 学校・町のためにできることを10・11月にするという事だと思う。
- 委員： まず、自分たちの地域のこと、それから発展したことをボランティアとしてやるということでもいいと思う。

委員： 設定上のねらいも変えることになるのか。

議長： 合わせて変えなくてはならないと思う。

事務局： 確認だが、視点の流れとして、「家庭→地域→社会」となる。「学校」は、10・11月の「地域」に含めるということでよいか。

議長： それでよいと思う。全部まとめて、カレンダーのことで、何かあるか。

委員： 1月の土曜日が青になっていない。

事務局： 全体に日付については確認する。

委員： 低学年だと読めない漢字がある。ルビを振るなどした方がよい。

事務局： ご意見を頂けて有り難い。ルビを振っても小学生には分からない。子供には、呼びかけの言葉や振り返りの部分をやってもらい、実践は、先生や保護者に対して示していく。または、「みんなであいさつをしてがんばっている学校があります」のように書いた方が伝わると思う。中学生でも同じだと思う。

議長： 文章がたくさん入っている。漢字も多い。ルビを振るともっと煩雑になる。簡略化して、やっていることだけを書いた方がいいと思う。保護者も文字が多いと見ないと思う。簡単な方がいい。

委員： ここに来るまで名鉄に乗ったら、「席をゆずってください」という言葉が目に入ってきた。「ゆずってください」という言葉が全てを表している。道徳的实践や心情を養うカレンダーを使って目に触れるということは大事なので。できるだけ単純な言葉がいいと思う。柔らかく単純に表した方がいいと思う。

委員： 例えば子ども達の場合は、「あなたは静香ちゃんタイプ？ ジャイアンタイプ？」と、自分はどこに当てはまるかなというだけでもくいついてくると思う。「あなたはどのレベル？」というのでも、たぶんカレンダーの中にある自分を探すということで、引き寄せる何かがあると、目がいくと思う。上手に使うとメリハリがつくいろいろな形で使うといいと思う。

委員： ひとつの言葉に限らず、多様な使い方ができると思う。

議長： もう少し簡略な言葉で紹介するというところでお願いしたい。

事務局： 一活用について説明—

議長： カレンダーは、毎日ぱっと見たら声をかけてみる。活用の仕方はいろいろある。できるだけ有効に活用してもらおう。何かご意見があればいただきたい。

委員： 4・5月が終わると捨ててしまうので、5月の言葉が6月に残るようになるとういと思う。

事務局： データ配信するので、使用した後で、自分で加工してもらえるとよい。

委員： 一番大切なのは、呼びかけの言葉。小学校の「あいさついっぱい」という言葉が意外と目立たない。背景色のせいかもしれない。磁石で貼ると字が隠れてしまう。実践の関連性がわかりづらい。初めにきちんと説明すれば、我々の意図のように使ってもらえると思う。

事務局： 大事なことを確認しつつ、ご活用していただけるように、印象に残るように全体のレイアウトを見直していく。

議長： いただいたご意見を元に、考えさせてほしい。

次に、子ども達の道徳性の現状についてご意見をいただきたい。

事務局： (説明)

議長： ご意見をください。

委員： いじめが社会問題となっている。人間関係が複雑で難しくなっている。いじめ

はいけないということを毎日のようにあちこちで言っているのに、新聞にあるようなことが起きているのが不思議だと思える。情報モラルは、学習指導要領の改訂でも取り上げられた。家庭に帰ると、携帯やインターネット上でメールのやりとりをしている。携帯をもっていない子ども達は、自分の知らないところで、何を言われているか分からない。持っている子は持っている子で、メールが来たら、返事を返さないと人間関係ができない。社会問題として大きなものがある。道徳教育として考えていかななくてはならない大きな問題だと思う。

議長： 情報モラルは、ずっと前からやっているのに、エスカレートをしていっている問題である。

委員 以前 NHK に勤めていた方の講演を聴いた。「メディア漬けで子供が壊される」という題だった。母親の80%が、おっぱいをあげるときに子供の顔を見ずにメディアを見ている。外遊びは、メディアによって極端に減っている。この現状で、人間関係だとか社会性が保てるわけがない。吉良町では、6年前から全町をあげて、ノーテレビ、ノーゲームを実施している。学校によっては、ほぼ100%、毎月20日レベルAとなっている。その学校の子供の状態は、どうかというと、11月末現在、130日くらいの授業日数だが、その内の70日が、全校欠席0である。県でも取り組まれたと思うが、いつの間にか消えてしまった。訴えかけるだけでもいいからアクションを起こしていかないと、子ども達は、益々メディアに漬かってしまう。何らかの形で復活してもらいたいと思う。

議長： 大人が我慢できずにやっているケースが多い。いろいろなやり方があると思う。将来先生になる人は知っていないといけないと思う。それだけのために買ったが、面白いので、それだけの世界に行ってしまう。

委員： カウンセラーが学校に入ったのが10数年前。なかなか学校の先生は一生懸命にやっている。でも、子供の成長過程は難しいので、10数年経って、保護者の規範意識の幅が広がってきた。学校、家庭、地域を含めて、いじめをターゲットとして、道徳教育を考えてほしい。

委員： いじめの問題は、ずっと解決できずにいる。20年30年である。教育した子ども達は卒業してしまう。また新しい子ども達が入ってくる。その子達にかかわっては送り出していくという作業をしている。毎年毎年入っていくということが、マスコミには理解されていない。我々の指導もしっかりしないといけない。いじめられている子供の心情に共感するということが大事だがなかなか育っていかない。一番の問題は親子の関係だろうが、いじめの問題にターゲットを絞って、子ども達の心の有り様に光を当てていくことも重要な課題になると思う。

議長： 豊かな楽しい経験をさせていかななくてはならない。いい経験は、必ずプラスになる。小学校に上がるまでに楽しい体験、喜び、悲しみ、教育振興計画でもいろいろ言われている

委員： 子ども達のいじめに関する意識は、随分よくなっている。10%以上解決されている。15~20%よくなっている。見た目のことでは回答できる。目の前にある一つ一つの事象として自分、あるいは他人の問題として、そこまで落とし込むということが苦手なのではないか。今の子ども達は、以前に比べて悪くなっているということはない。

議長： 現状については、いろいろな見方があると思う。